

## 第2回 戦没者遺骨の所属集団の鑑定及び鑑定方法の検討等に関する専門技術チーム (概要)

日 時：令和元年12月11日(水) 10:30～12:00

場 所：厚生労働省12階専用第15会議室

出席者：浅村主査、浅利構成員、北川構成員、坂上構成員、篠田構成員、橋本構成員、  
盛川構成員、山田構成員

概 要：

### 1. これまでの収集手順班及びDNA鑑定班における議論

(DNA鑑定班での議論)

- ・ ロシアの9事例について、ご遺骨とご遺族の検体をマッチングしている。まったく当たらない場合と、何例か血縁関係が認められた場合の両方があった。例えば、タンボフ州ではかなりマッチングしている。

(手順班での議論)

- ・ ロシアの9事例については、鑑定書はついているが、これだけでは日本人かどうか判断できない。写真が一番だが、あまり残っておらず、写真があった数個体は全てヨーロッパ系。
- ・ 今後は日本側専門家が同行するとともに、現地から日本に写真を送りダブルチェックをするなどの取組が必要。
- ・ 複数の目で見ていくシステムを作る必要がある。

### 2. 今後の遺骨収集の課題についての議論（主に現地焼骨について）

- ・ 未焼骨で持ち帰ることにより、DNAの抽出の精度が高まるかについては、鑑定人によってこの部位は得意、ということもあるので、部位が選べると助かる。
- ・ 形質学的にも、未焼骨の場合、確認することができる機会が増えるので、再現性は高くなる。
- ・ 早々に焼骨するのは少し待ったほうがいい。
- ・ 南方ではご遺骨がバラバラの状態で見られる。骨片まで未焼骨で持ち帰る必要があるのだろうか。ご遺骨の保管場所や、誰が管理するのか、また、誰がどこで焼骨をし、誰が立ち会うのか、こういった議論ができていない。